

7. 高砂市歴史文化基本構想の実現に向けた進め方

(1) 基本的な考え方

地域社会を構成する諸要素で基幹をなすものは、地域社会を構成する法人を含めた住民＝「ひと」と、住民が集い日常の営みを展開する場所＝「まち」である。本構想を実現するための具体的な方策も、この2つの要素にむけた働きかけとなる。

本構想で明らかになった、高砂市に息づく地域文化－「竜山石の文化」「みなとのまち」「白砂青松」「塩づくり」は、地域の先人が長い時間で育んできた、地域住民の「誇り」となりうる要素である。また前章までに整理した方向性では、豊かな文化を基層に成立する地域性と、住民の意識に距離感の生じていることが認識されている。

地域を愛する「ひとづくり」と、愛着を受け止めるにふさわしい「まちづくり」を展開し、2つの要素の適正なバランスを保つことが、豊かな地域文化の活用実現に向けた基本方針となる。

① ひとづくりとまちづくり

ひとづくりの方向性として、あらゆる機会を通じて、高砂の豊かな文化について、実感を持って共有し、ふるさととしての愛着を育む取組みが求められる。

次代の高砂を担う世代が地域に対する愛着を抱くためには、学校教育などを通じて持続的に理解を深め、維持発展することが重要で、対応した教育プログラム等の開発が必要となる。

また地域住民にとって、多彩な活用によって関心を高めることが重要になる。古くから地域社会を構成する市民には見慣れた生活環境が、地域の文化や誇りであると「再発見」する機会が重要であり、転入等による新たな市民においても、生活環境に対する理解を深める契機とできる。

様々な機会を通じて、市民が地域への意識を自発的に再確認できる取組みが求められる。あわせて、地域文化を知るなかで、地域への誇りが生まれ、生活の質が高まると期待される。

まちづくりの方向性として、地域の人々が愛着を感じ、深めるのにふさわしい「場」の創出が求められる。地域への愛着は感じる人によって様ではないが、長い時間の中で育まれたその土地だけの持つ「個性」が大きな影響を与える。「個性」が何によって形作られているのかを検証し、共有することによって、維持するにふさわしい景観整備が実現する。

今は見ることでできない個性が、市民の「記憶」に遺存する場合にも注意が必要である。高砂市の場合、海岸や松の風景が、市民の記憶に強く残されていた。記憶に具体を与え、住民全員が実感できる形で継承できる状況も重要な視点となろう。

② 市民と企業、行政の協働作業により進める

地域への働きかけは、短期で達成できるものではない。「次代への継承」も意識しながら、持続性の高い計画と取組みが求められよう。

また地域社会を構成する企業や、高砂市外の住民とも連携した取組みが求められる。市域の企業は、高砂市の近代化を担っており、地域づくりにも大きな影響を与えている。近代の産業遺産とし

て評価を受けている施設を所有している企業もあり、これからも歴史的評価を受ける可能性は高い。企業活動との整合を図る中で、地域資産として活用できる方策などを検討することで、地域とともに歩む視点が生まれることは、企業活動においても重要となると考えられる。

また、人口流動化社会においては、心ならずも「地域」から転出する人が少なくない。こうした人々にとって、高砂市が「かけがえのないふるさと」となる地域づくりに取り組む必要がある。

この場合、地域を構成する市民・行政・企業が、それぞれの立場から行う地域への働きかけが、それぞれに高砂市の各地区の歴史文化を維持向上させる目的で一致しながら、柔軟に結びつき協力していく体制づくりが重要である。

(2)ひとづくり

- くらしている地域がどんなところか、地域の歴史文化の特性を知り、その価値を再発見し、「地域のお宝」として魅力を実感する。「知る」
- 価値がどこにあり、地域にどのような関係性をもって広がっているかを理解し、その価値を共有する。「つなげる」
- 価値を継承し、誇りを持ち、主体的な活動を通じて、地域文化として再生し、方針や理想像をえがきながら、つなぎ、活用する。「活かす」
- 市民が、地域の歴史文化を理解し、歴史文化資源を活用し普及啓発する。「知らせる」

① ひとづくりプログラム

ア. ふるさと「高砂」の学習

副教材「たかさご」を用いた小学校3・4年生の学習をベースに、総合的な学習の時間や特別活動を活用して、中学校3年生まで、系統的に高砂学の実施を図る。自然、歴史、文化芸術、人物など、地域が育み継承してきた、地域ごとや市全体のストーリーをわかりやすく伝える。謡曲「高砂」を学んだり、申義堂や旧入江家住宅などの文化財建造物を見学するなど、歴史文化の学習や体験活動を通じて、ふるさと高砂への、誇りと愛着を育てる。

子どもだけでなく、保護者や地域住民の理解を促進し、地域の歴史文化の特性が理解できる機会となる。



【社会科副読本】

イ. 地域の人材と場の活用

地域の歴史文化に関する見識者や活動者が、学校活動に参画し、子どもたちへの歴史文化への関心を高める。高砂生涯学習人材バンクを活用して、多彩な知識や技術をもつ市民が、学習によって得た成果を役立てる活動の場を展開できる。

学校活動をこれまで支援してきた保護者が、若い世代として積極的に学校での普及啓発活動に加わり、郷土の歴史文化を学習研究している活動者や地域文化を支える職人などが、歴史文化を教え体験活動を行う等、子どもたちに歴史文化を伝える機会を創出する。オープンスクールや、中学生対象のトライやる・ウィークなど職業体験活動の機会も活用する。

竜山石研究の成果を高校生自らが子どもたちに教え伝えるなど、中学生や高校生たちも、歴史文化を継承する人材として登用し、普及啓発の身近な取組みと、将来にわたって歴史文化を理解し研究し伝える人材の育成も目指す。

学校で、歴史文化を伝える活動を通じて、地域住



【加古川東高校によるパネル展示】

民が、継承発展に直接かかわる機会を創出する。

ウ. 校区内や高砂市全体の歴史学習の体験

高砂市の特性ある歴史文化を知る機会として、地区で行われている祭礼や民俗風習に参加し、地区の個性や魅力を理解し継承の主体として育成することができる。

地域を知るまち探検や、竜山石作品づくりなどの親子歴史体験教室や、文化財の清掃、環境体験など、高砂市域でのふるさと歴史文化の体験活動や学習機会を通じて、自分たちの住むまち高砂を知る機会が広がる。

学習・体験活動の主体や団体は、地域住民・団体や行政担当部局が連携しながら、子どもたちの活動を支援し、生活文化のおもしろさ、疑問、不思議、感動を実感する機会となることを念頭におき、将来に向けた歴史文化の活用を図る。



【竜山石体験】

エ. 学習プログラムの開発と展開

わかりやすく、歴史文化を伝えるために、新たな手段や教材を開発する。インターネットホームページ「郷土の遺跡と文化財」(市視聴覚教育担当者会作成)を全学校で活用するなど、地域に根ざした新たな教材を開発し、教職員や専門機関・研究者が連携し、学習プログラムを創意工夫しながら開発し、歴史文化の継承へ展開する。



【ホームページ「郷土の遺跡と文化財」】

オ. 学習会・勉強会 ～参加型～

『高砂市史』を活用した歴史文化に関する講演会や、石切場コンサートなどのイベント、高砂歴史ガイドクラブによるまち案内など、座学とフィールドを織り交ぜた、歴史文化を知る機会を創出する。地域に関心があったり、学習意欲のある市民が、外部の専門機関・研究者や地元研究者・団体による講座を通じて、地域の歴史文化の個性や特性を認識し、総体的な歴史文化に対する理解を得ることができる。

単発的な学習講座に終始せず、地域ごとや市全体の歴史文化の活用へ、次のステップにつながる方針や計画をもっておく。行政や専門機関が、市



【旧入江家住宅での古文書講座】

民団体と連携しながら、主体となって実施する。

カ. 文化財調査・まちあるき ～参加型から自主型へ～

モデル事業では、墓石調査や文献調査など、市民団体が専門機関・研究者からの支援をうけながら調査を実施した。今後も引き続き、文化財調査を継続して実施し、市民が主体となって参加し行動する。歴史文化を自ら再発見することで、地域の歴史文化を共有し理解し、活用への展開に積極的な参加が促される。

まちあるきは、専門家と市民をつなぐヘリテージマネージャーなど中間組織の支援のもとで、市民自らが、地域に残る資源を顕在化しその背景を理解する機会を創出するワークショップである。まちあるきを実施する



【ヘリテージマネージャーによる調査】

ことで、地域文化を理解し、参加だけでなく主体性をもった取組みへの序章として展開できる。驚きと気づきの感動は、資源に対する価値の存在を認識し、資源の活用に対する盛り上がりや市民同士の認め合いにつながる。

より積極的な歴史文化遺産の再発見や認識を通じて、市民が主体性をもって、地域文化への理解を進めながら、活用への展開を目指すことができる。

キ. 主体的な活動 ～自主型～

地域コミュニティと市民団体が連携を図りながら、歴史文化を活用する活動へ展開する。

専門家によるコーディネートや学習機会を経て実践者を認定する、まちあるき実践ゼミを行うなどにより、あらゆる市民が活動の主体となる機会を創出できる。地域を案内したり、ともに学習する指導者や、活動を牽引する行動者を、市民自ら参画と協働のもとで育成することができる。



【高砂歴史ガイドクラブによる案内】

地域に継承されてきた伝統的な祭礼や民俗行事等を、地域が一体となって多世代にわたり、継承していくことで、地域の歴史文化の伝承やコミュニティの充実や再編を展望することができる。

コミュニティバスでまちめぐり、パワースポットめぐりなど、まちあるきの新たなパターンを企画したり、ふれあい喫茶を地域の県民交流広場で実施するなどして市民の交流を図るなど、自由な発想で、歴史文化に限らず地域の魅力を伝える活動の展開を図ることができる。

まちあるき実践団体や既存の研究団体等によるフォーラムを定期的を開催するなど、活動成果の共有化や市内の活動団体同士の情報交換の場を提供し、人的交流と情報交流によって、活動意欲の継続や発展を目指すことができる。他市町の先行例を視察するなど、情報収集や交流を図ることで、市内での活動を積極的に多角的に展開することができる。

企業の有する最先端技術・伝統技術の学習体験活動や、人材の支援を得ながら、白砂青松の記憶をたどる松の植栽や維持管理など、企業活動と連携することで、地域資源の掘りおこしや人材交流を図ることができる。

ク. 拠点と情報発信・人材交流

公民館や学校などの公的施設や、自治会館や県民交流広場などの民間施設、企業の関連施設、社寺や近代建築など民間所有の文化財建造物などを、市民主体の活動の拠点として利用する。活動の行事案内や展示紹介をしたり、各地区の拠点を結んだり歴史文化遺産を盛り込んだマップを作成するなど、情報をネットワーク化することで、普及啓発を広め、連携による活動の展開を図ることができる。

市内活動の盛り上がりは、他地域へ情報が伝わり、高砂市の歴史文化の魅力を外部へ発信する機会へと発展できる。竜山石を用いた石彫アート展示会などのイベントを合わせて行うことで、外部の参加や評価が高まり来訪者が増えていけば、市内活動の意気が高揚し、道案内や歴史文化資源の標柱などサイン標示の必要性など、必要要件をみたますハード整備やまちづくりへの期待や展開へとつながる。たかさご万灯祭や曾根灯りやんせなど、イベントへの集客や関心が高まり、目に見えた分かりやすい地域資源の盛り上がりと、地域コミュニティへの還元が見込まれる。

郷土の偉人を取りあげることで、学習活動や人材・地域間交流を図ることができる。また、高砂市域外で活動している芸術家や伝統芸能保持者などの人材を登用したり、市民以外の参加を促し、地域間交流を通じて、自分たちの住むまちの魅力向上や活動の推進につなげることができる。能・狂言の伝承者による「謡曲高砂」にちなむ実演・交流や、彫刻家による竜山石を使った石彫コンクールなどの開催などが考えられる。



【高砂神社能舞台での観月能】



【たかさご万灯祭 十輪寺での JAZZ コンサート】



【申義堂の復元と活用】

(3) まちづくり

① 歴史文化基本構想とまちづくり

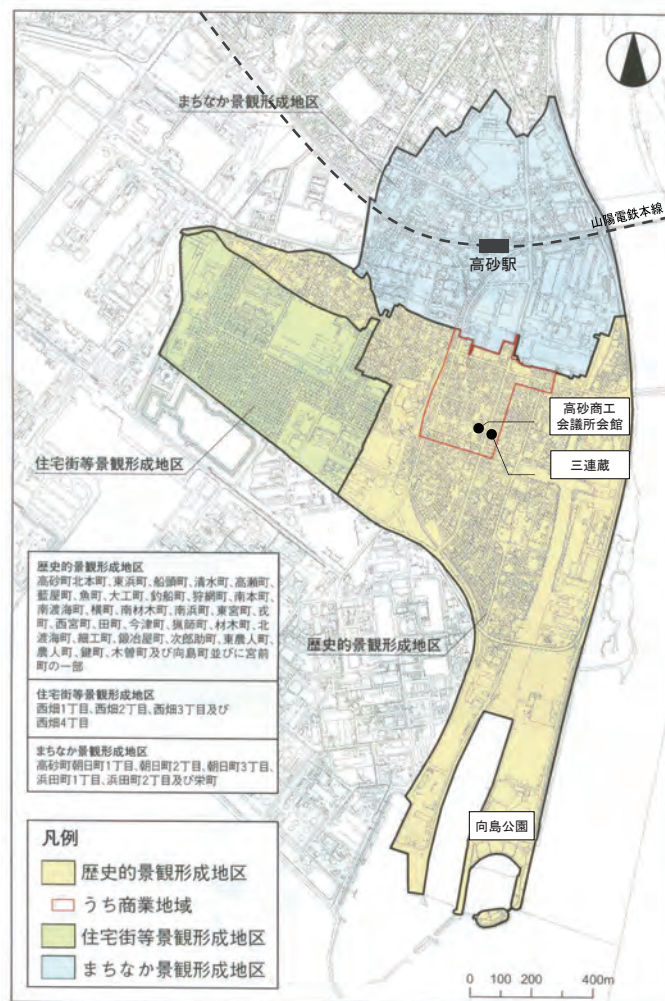
歴史文化基本構想は地域ごとの歴史文化の目指すべき将来像が重層して示されたものであり、まさに高砂市や各地域のまちづくりと直結するものである。歴史文化資源の活用により高砂市の歴史文化に裏打ちされた個性や魅力の向上を図るとともに、既存のまちづくり課題の解決にそれぞれの資源をうまく活用し、課題解決と魅力向上を同時に効果的に図ることが求められている。すでに先行するまちづくり計画である「高砂みなとまちづくり構想」にもとづく「高砂みなとまちづくり行動計画」などにより関連した取組みが進められており、これらと連携し、発展させながら取組む。

これらの取組みは「保存活用ゾーン」に位置づけられている高砂市全域で取り組む必要がある。同時に「重要保存活用区域」に位置づけられている「みなとのまち」等の旧市街地は、とくにまちづくりを牽引する地域として、重点的な取組みを行うこととする。

高砂市の歴史文化を活かしたまちづくりの方策は「歴史文化資源を活かした地域の個性と魅力の向上」「歴史文化資源を活かした地域の活性化」の二本柱に集約できる。

② 歴史文化資源を活かした「みなとのまち」や各地域の魅力の向上：市民の誇りの醸成

歴史文化資源の存在や価値の顕在化、さらにはその保存活用により、「みなとのまち」をはじめとする各地域の個性や魅力を高め、ひいては相乗的に高砂市全域の個性や魅力を高める。地域住民をはじめとする市民がこうした魅力を再認識することで、それぞれのまちや、ひいては高砂市全体に対する愛着や誇りを深め、高砂に関心を持ちながら住み続ける人を増やす。



【高砂地区歴史的景観形成地区等】

ア. 歴史的まちなみや伝統行事などを活かした「みなとのまち」の魅力づくり

それぞれのまちの歴史的建造物の保存や、それ以外の建造物のまちなみの特性に応じた修景などによる歴史的まちなみの継承と魅力向上、伝統的な祭礼の維持継承などにより、「みなとのまち」の個性や魅力を高める。その他のまちについても各地域の個性を高めていくことで、ひいては高砂市全体の個性や魅力の向上を図る。

【方策例：既に取り組んでいること、すぐできること】

- 小学校などの地域の歴史学習等を市民団体が協力し、また各地域住民（荒井地区、曾根地区など）による地域の歴史文化に係る勉強会の実施（高砂みなとまちづくり行動計画）
- 兵庫県景観条例に基づく高砂地区の景観形成地区の指定（指定済）。
- 美しい日本の歴史的風土準百選への選定（選定済）
- 高砂、荒井、伊保、曾根地区における景観等をテーマとした意見交換会の実施（高砂みなとまちづくり行動計画）など

【方策例：中長期的に考えられること】

- 高砂地域以外の曾根、今市などの個性ある歴史的市街地の保全方法の検討
- 歴史的まちなみを構成する歴史的建造物の小修理、それ以外の建造物の修景等に対して、支援を行う
- 伝統行事の継承に向けた支援（後継者育成・用具修理など）。

イ. 「白砂青松」を感じさせる「なぎさ」の再生

「白砂青松」の再生にむけて、市民が水辺に親しむことができる空間づくりを推進する。「白砂青松」を彷彿させる歴史文化資源の再生（例えば「松」）などを整備内容に盛り込むことで、高砂らしい魅力をもった水辺空間を生み出す。

【方策例：既に取り組んでいること、すぐできること】

- あらい浜風公園の利活用、高砂海浜公園などの再生（高砂みなとまちづくり行動計画）など

ウ. 「塩づくり」をはじめとする地域産業技術の伝承、伝承の場づくり

自然地形を活かした「塩づくり」について、その技術を再現し、さらに次世代に伝承する場づくりを行う。「塩づくり」に因み、海岸部など高砂市固有の環境を活かした産業技術の発掘やその伝承、活用に取り組む。

【方策例：既に取り組んでいること、すぐできること】

- 市民団体による「塩づくり」などの地域産業に関する勉強会の開催
- 高砂市の海岸部の環境を活用した近代産業の遺産などの掘り起こし など

エ. 「竜山石の文化」をはじめとする各テーマの歴史文化資源を繋ぐ「まちあるき」

相互に関連する歴史文化資源を明示するとともに、それらを巡り歩くことで高砂の歴史や魅力を理解し、関心や愛着が深まるような「高砂まちあるき」のルートを、地域住民らの参画により設定し、周知を図る。

【方策例：既に取り組んでいること、すぐできること】

- 地域歴史文化資源の掘り起こし（高砂みなとまちづくり行動計画）。
- 歴史的資源と堀川水路を結ぶネットワーク等の整備イメージの検討（高砂みなとまちづくり構想）
- 既存団体を中心とした歴史ガイドの実施（高砂みなとまちづくり行動計画）
- 各地域の歴史文化資源を巡るまちあるきルートづくり。
- 各地域の歴史的文化的資源の存在を顕在化させるサインづくり。
- 「竜山石の文化」など、テーマごとのまちあるきルートづくり（広く高砂市民や市外の住民を含めた検討の場を設ける）。
- 「まちあるきルート」のマップ作成。



【曾根まちあるき（平成 22 年 2 月）】

【方策例：中長期的に考えられること】

- 魅力的なまちあるきルートの設定、市民団体の育成と拡充等によるまちあるきガイドの養成。
（例えば、石の宝殿や竜山石切場を起点として、積み出しに使用された川筋を辿りながら、みなとのまちへ至るルートなど）。

③ 歴史文化資源を活かした地域活性化：高砂を「第二のふるさと」と感じる人々を増やす

歴史文化資源を活かして高砂市の個性や魅力を高め、それを市民、企業、市外に発信していくことで、高砂に関心を持つ人を増やし、将来的に定住化や来訪者を増やし、地域の活性化に寄与させていく。（住み続ける、移り住む、来訪する）

ア. 歴史的建造物の空き家、空き店舗をまちづくり資源として有効活用する

「みなとのまち」をはじめとして地域にある歴史的建造物の空き家、空き店舗を貴重なまちづくり資源として捉え、市民活動の舞台、短期～長期居住、店舗などさまざまな形で活用し、高砂市に関心を持つ人、高砂に関わる人、高砂に多様な形で住む人を増やす。

【方策例：既に取り組んでいること、すぐできること】

○曾根地区の旧入江家住宅の活用。



【旧入江家住宅の修理現場見学会】

イ. 高砂市の歴史ある地域を象徴する歴史的建造物の市民文化活動等への活用

「みなとのまち」などの歴史的市街地を象徴する歴史的建造物については、市民や企業の文化活動等に積極的に活用することで、市民や来訪者が高砂や各地域の歴史文化を再認識する場とする。

【方策例：既に取り組んでいること、すぐできること】

- 高砂地区の花井家住宅の活用（高砂地区まちづくり協議会）。
- 高砂地区の申義堂の復元と活用。
- 曾根地区の旧入江家住宅の活用。

【方策例：中長期的に考えられること】

- 今市地区など、「みなとのまち」やその他の地域を象徴する歴史的建造物の拠点的活用。
- 近代化遺産など、企業や行政が高砂市の近代化に寄与してきた象徴の活用。
- 地域に根ざした市民の文化活動等の推進に向けては、市民が親しみやすい歴史文化資源を活用し地域の文化活動の活性化を図る方策の検討。



【花井家住宅の活用】

ウ. 高砂市の歴史文化を感じるまちあるきの実施により、高砂市を訪れる人を増やす

高砂市の歴史文化に関心や愛着が深まる「まちあるき」のルートを活用し、その環境整備に努めるとともに、地域住民や市民が主体となってまちあるきを持続的に提供し、高砂市の歴史文化に関心を持って訪れる人を増やす。交流人口の増加を図る。

【方策例：既に取り組んでいること、すぐできること】

○実験的な訪問者向けまちあるきの提供。

（歴史文化基本構想策定の中でたかさご万灯祭まちあるき、曽根まちあるきを実施）

【方策例：中長期的に考えられること】

○地域住民や市民が設定したまちあるきルートを活用した継続的なまちあるきの実施。

○まちあるきを企画運営する地域住民と市民、企業の協力体制づくり。

※重要なまちあるきルートとして

○竜山石切場、石の宝殿を起点として、石が運ばれた旧川筋や、石が交易・活用された「みなとのまち」などの「竜山石の文化」を巡るルート。

○「みなとのまち」を巡り、まちの個性を対比できる旧浜街道のまちあるきルート。

○高砂海浜公園などと、海浜部の企業見学を組み合わせたまちあるきルート。

○竜山を起点に高砂市の歴史文化資源を巡る総合的なまちあるきルート。

○魅力的なまちあるきルートを活かした、持続的なまちあるきの提供。高砂市の歴史文化に関心を持つ来訪者を対象とした「ヘリテージツーリズム」の提供。

（例えば、国内の諸団体と連携した情報発信や地域還元の仕組みづくり。市内企業勤務者に向けたまちあるきの提供。など）

○まちあるきルートの魅力を高める環境整備。

（例：まちあるき起点となる「竜山石」に係るガイダンスの設置、「みなとのまち」などの既存施設を活かしたまちかどミュージアムの活用、空き家の歴史的建造物を活用した滞在先の提供、まちあるきポイントとなる歴史文化資源の「ふるさと文化財」への登録など）。など



【町名由来板と竜山石を使用したサイン（高砂町）】

④ 様々なまちづくり計画との調整、連携

高砂市の歴史文化を活かしたまちづくりの推進にあたっては、高砂市の既存制度やまちづくり計画と密接な調整、連携を図る。例えば以下の事柄が考えられる。

- 都市計画マスタープランなどのまちづくり計画において、歴史文化を活かしたまちづくりを位置づける。また歴史文化基本構想における保存活用区域については、歴史的環境の保存活用に向けた取組みを位置づける。
- 歴史文化を象徴する景観を持つ地域に関しては、高砂地区に引き続き、景観保全に向けて検討する。その他、歴史的市街地の歴史的景観の継承に向けた様々な取組みを検討する。
- 歴史文化基本構想の実現に向けては、既存都市計画との調整を十分に行う(例えば、竜山石切場周辺の用途等の規制、都市計画道路の位置の調整など)。
- 来訪者に対する交通利便の提供を図るとともに、歴史的市街地内においては、通過交通などの抑制を図るなど、魅力的な歴史的環境の保全に寄与する交通計画を検討する。
- 近代以降の人口増加と新旧住民の混在については、地域コミュニティの継承と再生に向けて、新旧住民が共に認知しやすい歴史文化資源を手がかりとして、新旧住民をつなぐ新たなコミュニティの構築を目指すことを検討する。
- 高砂市の観光、産業等の振興については、歴史文化資源の活用により、高砂市の魅力向上を図り、交流人口の増加や、これを対象とした観光やその他産業の振興を図ることが考えられるため、これを検討する。
- 地域の歴史文化資源を活かしながら住民の生命財産と暮らしを守る防災まちづくりの推進を検討する。

⑤ 高砂みなとまちづくり構想との連携

ア. 高砂みなとまちづくり構想の概要と進捗状況

高砂みなとまちづくり構想の背景と目的

播磨沿岸の東部に位置する高砂市の臨海部は、播磨工業地帯の中核を担い、戦前・戦後、高度経済成長期においては周辺地域の活力を支えてきた。一方、市民にとってなぎさが遠い存在となるとともに、臨海部の企業活動も転機を迎えつつある。

こうした中、人と海がふれあえるなぎさづくりに向けて「東播磨地域ビジョン」「瀬戸内なぎさ回廊づくり構想」に基づく取組みが進められている。

このような背景をうけ、高砂臨海部において、快適で賑わいのある水辺空間を提供し、市民生活にいやしと安らぎを与えること、港湾・道路などの社会基盤や地域資源を活用しながら、産業と地域の活性化を図ることを目的としている。

高砂みなとまちづくり構想の概要

高砂みなとまちづくり構想の基本理念

市民、企業、行政の融和、連携、参画と協働によりつくりあげる高砂みなとまち
～ 輝く高砂みなとまちミュージアム構想 ～

基本方針1 高砂ウォーターフロントミュージアムづくり

【展開方向】・市民の憩いの場であるなぎさの再生

- ・市民の暮らしとなぎさの距離を縮めるアクセスの強化
- ・周辺地域との連携によるさらなる水際線利用

基本方針2 高砂産業ミュージアムづくり

【展開方向】・港湾、道路等の社会基盤の充実による産業支援

- ・産業の活性化によるにぎわい空間の創出
- ・漁業の活性化によるにぎわい空間の創出

基本方針3 高砂歴史ミュージアムづくり

【展開方向】・みなとの発展に関連深い歴史的資源の保全、再現

- ・歴史ある高砂の祭りの保全と観光資源としての活用

上記の基本理念、基本方針に基づき「みなとまちづくり行動計画」が策定され、具体的な取組みが進められている。

イ. 高砂みなとまちづくり構想と歴史文化基本構想の関係

○高砂みなとまちづくり構想の基本方針及び展開方向のうち、高砂歴史ミュージアムづくりの「歴史的資源の保全、再現」や「祭りの保全と活用」、高砂ウォーターフロントミュージアムづくりの「なぎさの再生」や「暮らしとなぎさの距離を縮めるアクセス強化」などが、歴史文化基本構想の趣旨と一致している。

ウ. 具体的な連携方策・将来的な展開

○とくに旧市街地や海岸部に関しては、高砂みなとまちづくり構想に基づく高砂みなとまちづくり行動計画の見直しにあたり、歴史文化基本構想の内容を反映させて、発展させる。歴史文化基本構想の一部は高砂みなとまちづくり構想の実施主体により実現を図る。

○みなとまちづくりの核となる旧市街地は歴史文化基本構想の核でもあり、高砂みなとまちづくり行動計画に基づき、各市街地においてその実践を進める。

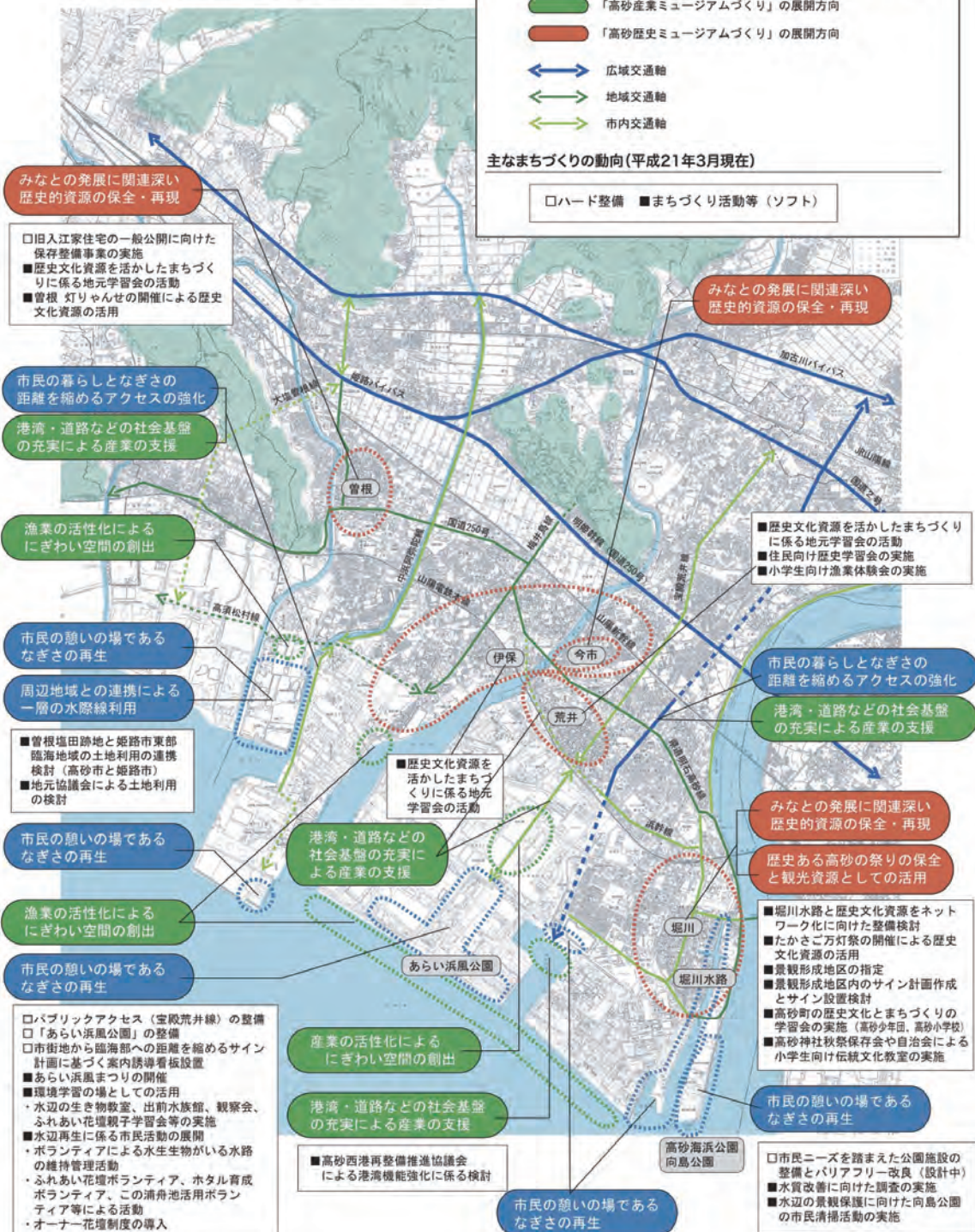
○「なぎさ」の再生は白砂青松や塩づくりの再生と連携し、「なぎさ」と繋がりのある松の再生や塩づくりの再現に向けて取り組む。

○「高砂みなとまちづくり構想」で謳う、みなとのまちと「なぎさ」、みなとのまち同士を結ぶルートとして、川筋や旧道が新たに考えられる。

○竜山石は川で運ばれ、川港で各地に運ばれ交易された。竜山石の文化は古代以来、「みなと」により発展した文化である。このことを踏まえ、将来的には、南北軸の河川と海がつなぐ水運や竜山石の流通に限らず、古代から近世にかけての街道ルート沿いや、水田耕作に伴うため池・水路などを動線ととらえ、歴史文化の関係性や広がりを拡大し、高砂市北部も含めたまちづくり構想に拡大していくことが考えられる。

■ 高砂市の主なまちづくりの動向

【参考資料】
 高砂市みなとまちづくり構想（H17年3月策定）
 高砂市みなとまちづくり行動計画の検証資料（H21年3月31日現在）



(4) 構想推進の体制づくり

① 本項の目的

本項においては、構想の推進にあたり、市民、企業、行政がそれぞれどのような担い手となり、協力して進めていくかについて、役割分担と進むべき方向性を示す。

② 推進体制の基本的な考え方

ア. 体制づくり

構想の具体化にあたっては、そのためのシステム、推進体制が必要となる。それは単に歴史文化を検証し維持を図るだけではなく、今日の社会活動において意味をあたえ、将来像を良くしていくシステムでなければならない。そのためには、高砂市の社会を構成するあらゆる立場が参加できる必要がある。

イ. 体制を担う中核的人材を育てる

体制を整えていくためには、構想の推進を担うそれぞれの主体において、活動の中核を担い高い専門性を持つと同時に、他の主体への目配りや働きかけができる中核的な人材が必要である。さらには、こうした人材が核となって活動し牽引役となる組織(中間組織)が必要となる。

ウ. 既存活動の深化、発展から

すでに高砂市においては、高砂みなとまちづくり構想に基づく各地域の学習会や、文化財調査に参加した調査研究団体、その他の市民文化団体、地域活動に取り組む企業、NPO など、様々な既存活動が存在する。歴史文化基本構想は、これらの活動と連携して策定を進めており、今後は既存活動に構想の担い手としての自覚を持ち、活動を深化、発展させていくことから始める。ここに「ふるさと文化財」などの手法が取り入れられることなどで、広く市民や企業の自発的参加を促し、中核的人材や、この後述べる構想推進の大きな枠組みが生まれてくるよう、各主体が協力して取り組む。

③ 市民の推進体制

ア. 市民、市民活動：地縁型とテーマ型の協働

現在の高砂市は旧来から継続してきたまちと郊外型都市の二面性を持つ。こうした中で高砂市における市民活動は大きく二分される。

一つは、長い歴史の中で形成された旧市街地において顕著な活動で、地域構成員による歴史の長い地域活動であり、例えば、自治会、婦人会、青少年団体、祭礼組織などを中心とする活動である(地縁型活動と呼ぶ)。もうひとつは、あるテーマ(福祉、まちづくり等)のもと市域全域で活動を進めるものであり、各種の文化団体やまちづくり団体がこれにあたる。

地縁型活動は地域に密着している分、活動が固定化し、地域外からの参画に消極的な側面もある。一方、近代以降の人口流入で古くからのコミュニティは変貌しつつある。テーマ型は強い参加意欲を持つが、地域との繋がりが薄く、地域課題解決への関与に限界を感じている。両者は、これまで個別に活動してきたが、今後は、歴史文化を介在させることで、地域に対する想いを共有し、活動の協働に導いていく必要がある。とくに旧市街地における歴史文化の見直しは、各地域における歴史文化の認識の深まりとともに、他地域に対する関心の醸成や、ネットワークの形成に結びつくと考

えられ、そのことは地域住民の参加意欲を高めるとともに、テーマ型活動の地域への参画をより促していくこととなる(例えば、ふるさと文化財制度やまちあるきを活用するテーマ型の市民団体が地域活動を担う地縁型団体を支援する)。

このように、高砂市既存の地縁型、テーマ型、双方の活動をより深化・発展させるとともに、今後は地域の歴史文化を媒介としながら、双方が協働できる関係を築きあげていくことが目標としてあげられる。

曽根まちあるき、荒井地区まちづくり学習会、たかさご万灯祭まちあるき

平成21年度実施の曽根まちあるきにおいては、文化財調査に参加した市内他の調査研究団体が案内役となり、曽根や他地区の住民を案内して、まちあるきを実施した。単に案内をするだけではなく、地域住民にも自分なりのお宝を発見してもらう取組みとし、その結果、歴史的建造物の外壁仕様や路地の形態、竜山石の使われ方などが再発見され、曽根のまちの魅力が再認識された。

荒井地区は、高砂みなとまちづくり構想に基づき勉強会が作られている。学習会ではこれまで数度にわたりまちあるきを実施してきた。荒井地区まちづくり学習会では、文化財調査で発見された歴史文化資源にかかる説明を専門委員が行ったり、他地区の活動団体も参加した。これにより勉強会の歴史文化に対する視点を深めたり、団体間交流が図られ、今後の活動の参考とされた。

平成22年度のたかさご万灯祭においては、地域外の希望者を募集し、文化財調査に参加した専門委員などが地域を案内するまちあるきを実施した。その後、万灯祭の場において、来訪者自身により高砂のまちの魅力が地域住民らに示された。

これら歴史文化資源を発見するまちあるきなどを通じて、地域住民が地域の歴史文化に対する理解や関心を深めることが実証された。また案内役となった専門委員自身が、参加者から多くの視点を心得て知見を深めるとともに、まちあるきの実施など、今後の活動に対して主体的な意欲を抱いたことは、今後の中核的な人材育成に向けて可能性を示す結果となった。



イ. 企業、企業活動

高砂市内の企業は、本構想の推進になくてはならない存在である。今日、企業による産業学習体験などが実施されており、今後も新たな歴史文化の担い手として企業の参画が求められる。

今回のテーマには、明治以降に進出した企業がもたらした、様々な産業文化や産業技術については直接触れていないが、臨海部に立地した企業群も、多くの歴史文化資源を有している。今後はふるさと文化財活用の中でこれらの資源の顕彰を行う、あるいは企業の人材、施設、技術、知恵等を活用して、子供達が環境体験学習に参加したり、近代化遺産見学会に地域住民が参画するなど、市民と企業の協調と連携を図ることが望ましい。



【三菱製紙魚町倶楽部】



【高砂浜風駅伝競走大会】

④ 市政の推進体制

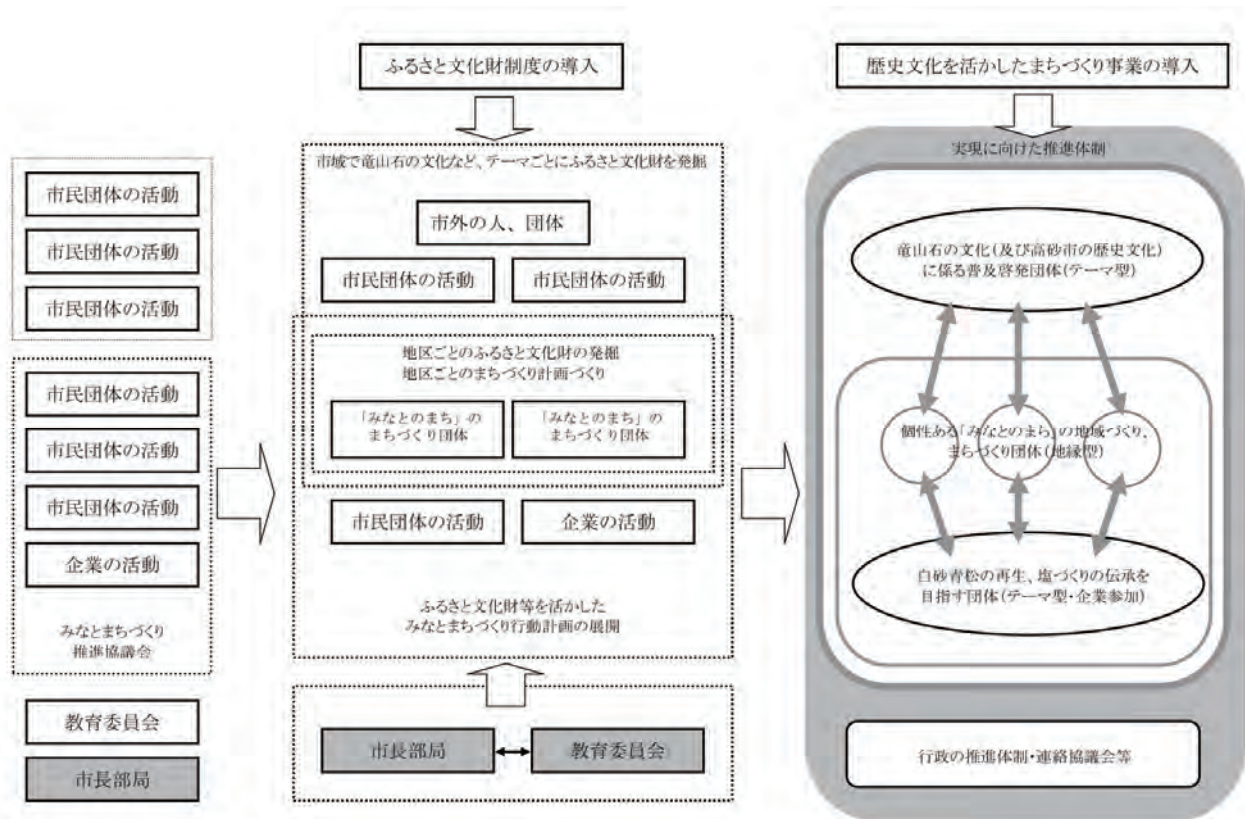
これまで、文化財保護は教育委員会が所管し、まちづくりや高砂みなとまちづくり構想は市長部局のまちづくり部が、産業振興や市民活動も市長部局が所管する。さらに平成 23 年度からは文化スポーツも市長部局が所管する。

今回の歴史文化基本構想の策定は、文化財保護部局が事務局となり、庁内関係部局と庁内委員会を設置するなど連携を図りながら推進してきた。

歴史文化基本構想は、市の施策における歴史文化の視点からの取組みを整理したものであり、今後は関連する各部局との連携を図る必要がある。同時に構想の実現に向けた中核的取組みはひとづくりとまちづくりであり、教育委員会、まちづくり部等、組織を横断した強力な「推進体制」の整備や、研修等を通じた職員の意識向上が求められる。

⑤ 全体的な「推進体制」

市民、企業、行政が構想推進に取り組むにあたり、それぞれの中核的人材、組織が育て上げられ、そうした過程を経て将来的には、各者が協力、協働できる下図のような体制づくりを目指す。その際、行政は、各種のひとづくり、まちづくり施策をもって、構想推進の牽引役となり体制整備に向けて努める。



【推進体制図】

(5) 実現工程と導入事業

歴史文化基本構想の基本理念と施策を具体化するため、市民、企業、関係団体、専門家、行政などが一体となって取り組むためのプログラムを策定することが必要である。

① 実現に向けた基本的考え方

- 構想の理念を共有し、その実現に向けた取り組みの方向性を示し、各主体に提案する。
- 各主体(市民、企業、関係団体、NPO、専門家、行政など)が自主的に、あるいは連携して取り組むことが可能な工程とする。
- 社会情勢や市民ニーズの変化や取り組み状況に応じて適宜検証し、見直しを行いながら実現化を図る。

② 実現工程と導入事業

下記のとおり、段階的な工程とする。

○短期的取り組み

初動段階のアクションプログラムは、先導的に実施できる方策とする。既存活動の深化・充実もこれに加える。地域の歴史文化を活かした地域活動に対する支援事業などを活用する。

○中期的取り組み

アクションプログラムの成果を踏まえ、五カ年程度を見通して、事業効果が大きく実現可能なものを盛り込む。歴史を活かしたまちづくりに対する支援事業などを活用する。

○長期的取り組み

将来的に実現を目指す方策を盛り込む。